

千葉大学 × 京葉銀行 ecoプロジェクト

7色の虹を千葉から未来へ

2020 年度実施報告書



2021年3月24日

千葉大学環境 ISO 学生委員会

目次

0. はじめに	p.3
(1) プロジェクトの概要	
(2) プロジェクトの内容と 2020 年度の概要	
1. 京葉銀行による学生委員会の環境活動支援	p.5
2. 学生による「エコアクション 21」取得コンサルティング	p.6
(1) エコアクション 21 について	
(2) 本企画の概要	
(3) 進捗状況	
(4) 来年度の展望	
3. 学生発案の 7 つの環境貢献企画	p.8
(1) 千葉大生と考える環境ゼミナール	
(2) こどもエコまつり	
(3) 千産千消フェア～ちばを食べてエコしよう～	
(4) Chiba クリーンアクション	
(5) 映画祭 Chiba 2020	
(6) エコ発信局	
(7) 京葉銀行エコチャレンジ	
4. まとめと来年の展望	p.20
(1) 総括	
(2) プロジェクトリーダーより	

0. はじめに

(1) プロジェクトの概要

<発足経緯>

国立大学法人千葉大学と株式会社京葉銀行は、2012年に包括的連携協力に関する協定を締結し、地域に様々な付加価値の提供と、地域社会、経済、産業の発展と活性化に積極的に取り組んできた。千葉大学は2005年に国際規格のISO14001を取得し、学生主体の環境マネジメントシステムを実施してきた。「千葉大学環境 ISO 学生委員会」は発足から今年度で17年目を迎え、千葉大学の環境マネジメントシステムの運用を担うとともに、大学内と地域の環境意識の向上を促進するため、様々な環境活動を行ってきた。

京葉銀行では地元企業として地域のよりよい未来のために、これまでも地域貢献や社会福祉活動、文化・スポーツ振興等に取り組んできた。環境面においてもお客さまの環境意識の高まりを受け、定期預金の満期案内を環境保全に変える「エコプロジェクト」や「ちば環境再生基金」への寄付活動、環境配慮型商品のご案内等のお客さま参加型の環境活動を実施しており、今後の更なる環境への取り組みを模索している。

また、2015年に国連で採択された持続可能な開発目標(SDGs)は世界共通語となっている。京葉銀行と千葉大学が協同することで、産学連携というパートナーシップのもと、気候変動をはじめとする地球環境問題の解決に向けたSDGsの達成に寄与していくことができると考えている。

このような背景があり、2017年に「地域の環境負荷削減と環境意識向上に貢献したい」という両者の想いから本プロジェクトが発足した。毎年度、プロジェクトの内容を見直し、企画の発展を検討したり、新しい企画を考案したりするなど、プロジェクトのパワーアップを図ってきた。

<名称>

千葉大学×京葉銀行 eco プロジェクト ～7色の虹を千葉から未来へ～

<目的>

環境活動促進 + 地方創生 + 学生の社会勉強 → 地域活性・環境への貢献

- ① 県民の皆さまや京葉銀行の役職員、取引先企業、千葉大生に対する環境意識の啓発活動
- ② ①の活動による地域社会の活性化と環境負荷削減への貢献
- ③ 京葉銀行の役職員や多様な主体と協同することによる学生の社会勉強の機会創出

<名称とロゴに込めた想い>

千葉大学と京葉銀行が連携して、様々な環境活動を行うことで、千葉県から未来の地球に貢献するという想いがこもっている。その活動の主体として、ロゴの中心には千葉大学環境 ISO 学生委員会のキャラクターである「いそちゃん」がデザインされている。デザインは学生委員会の学生が行った。



(2) プロジェクトの内容と 2020 年度の概要

① 京葉銀行による学生委員会の環境活動支援

国内外の環境系のシンポジウムや大会等で、千葉大学の学生による先進的な環境への取り組みや SDGs の取り組みを発信していく。これにより、サステナブルキャンパスの推進に貢献するとともに、学生にとってはプレゼンテーション経験や他大学との交流ができる機会となる。京葉銀行は学生派遣の旅費等の資金を提供するほか、企業が持つ知見やノウハウを活かしアドバイスするなど学生を支援する。

<2020 年度>

- 新型コロナウイルスの影響により、国内外に学生を派遣することができなかった。
- オンラインで開催されたものについては参加したものの、旅費等は使用しなかった。
- 今年度は新たな寄付金はいただかず、これまでにいただいた寄付金を使用して活動を行った。

② 学生による「エコアクション 21」取得コンサルティング

企業が環境に配慮した事業活動を推進することは、地域の環境負荷削減や環境意識の向上につながることから、千葉県内の企業のエコアクション 21(以下 EA21)取得を促進する。京葉銀行が取引先企業を紹介し、学生が EA21 のコンサルティングや環境レポート作成補助を行う。学生にとってはコンサルティングを通じた環境教育と企業とのかかわりによる社会経験となる。また、学生によるコンサルティング活動は、環境 ISO 学生委員会がつくる「NPO 法人千葉大学環境 ISO 学生委員会」の実績となる。

<2020 年度>

- 新型コロナウイルスの影響により、2019 年度にコンサルティングをしていた弘報社の審査が滞ってしまった。
- 新たに 2 社のコンサルティングを開始することになった。

③ 学生発案の 7 つの環境貢献企画

地域の方々や京葉銀行の関係者の方々に対して、環境意識の啓発につながるイベント等の活動を行う。京葉銀行は主に個々の企画の開催段取りを行い、学生はコンテンツ作成・当日運営を担当する。学生にとっては普段の活動ではあまり実現できない場で活動することができるとともに、環境教育や実務教育の機会となる。

<2020 年度>

- 新型コロナウイルスの影響を考慮して、非対面での実施に形を変えたり、新しい企画を発案するなどして実施した。
- 今年度は **7 個**の SDGs に寄与することができた。



1. 京葉銀行による学生委員会の環境活動支援



<概要>

京葉銀行の寄付により、学生委員会の環境活動を支援する。主に、旅費等を支援し、学生委員会のメンバーが国内外の環境系の会議や交流会等に参加する。

<目的>

国内外の環境系の会議や大会等で、千葉大学の学生主体の先進的な環境への取り組みを発信していくことによって、サステナブルキャンパスの推進に貢献する。また、プレゼンテーション経験や他大学との交流は学生にとって貴重な機会となるほか、他団体等との交流を経て活動のさらなるレベルアップに資する経験・知識を得る。

<寄付金額>

2017年度 200万円、2018年度 230万円、2019年度 200万円 … 3カ年合計 630万円

2019年度 繰越残高:1,858,768円

2020年度 残額: 1,652,268円

<実施報告>

① 学生派遣に関して

今年度は新型コロナウイルスの影響で国内外派遣は行わなかった。

例年、旅費等を支援していただいていた派遣していた大会のうち、毎年参加しているものについては以下の通り。

会議・大会名	日程	開催方法	参加学生
第14回 環境マネジメント全国学生大会	9月9日	学生委員会が主催となつて、オンラインで開催した。	3名
サステナブルキャンパス推進協議会(CAS-Net JAPAN)の2020年次大会	11月14日	オンライン開催	1名
Asian Conference Sustainability Network 年次大会	タイで開催される予定であったが、新型コロナウイルスの影響のため開催中止		

② 学生の環境活動支援に関して

例年、「京葉銀行による学生委員会の環境活動支援」では、学生を国内外に派遣するだけでなく、学生委員会の環境活動を資金面から支援していただいている。

今年度は、学内で実施したエコキャンペーン・非対面イベントにおいて配布したオリジナルデザインのエコバッグの製作費を寄付金から捻出させていただいた(400枚 合計129,800円)。

また、「7つの企画」のうち、エコ発信局で実施した「みんなでタネをまこう！レタスを味わおう！」という種の配布企画において、種の購入に充てさせていただいた(1,500個 74,370円)。

「Chiba Winter Fes 2021 ～千葉からエコを広げよう～」については、対面開催を切望していたものの、2020年度中の対面開催はあきらめ、現在、2021年春のオンラインでの開催に向けて準備中。オンライン開催にも費用がかかることから、寄付金から使わせていただく予定(金額未定)。

2. 学生による「エコアクション 21」取得コンサルティング



(1) エコアクション 21 について

エコアクション 21(以下 EA21)は、平成 8 年に環境省が策定したガイドラインである。このガイドラインの運用によって、環境・エネルギーに配慮した組織づくりを進めることができる。主に中小企業を対象にしているため、費用・手続き面で ISO 取得に難がある企業でも取り組み、確実な効果を期待することができる。



【参考】ISO14001 と EA21 の主な違いは以下の通りである。

	ISO14001	EA21
規格の策定	国際標準化機構(ISO)	環境省
規格の目的	環境負荷の削減	環境負荷の削減
登録機関	日本適合性認定協会	エコアクション 21 事務局(中央事務局)
要求事項項目	18 個	12 個+1 個(環境経営レポート)
内部監査	あり	なし(従業員数 100 名以上だとあり)
情報公開	特に規定なし	環境経営レポートの公表
審査・認定費用	100 万程度	20 万程度
認知度	国際的に高い	国際的に低い

<取り組み方>

ガイドラインに従って 14 の要求事項を満たすことが軸となっている。これによって自動的に PDCA サイクルが回るようになっており、継続的な環境負荷削減が見込める。Check(点検)の段階で、EA21 の運用と結果をまとめた環境経営レポートを作成することが義務付けられている。

<認証・取得>

- ①3 か月以上の環境経営システム運用
- ②各種データ・書類の管理・提出
- ③環境経営レポートの公表

の 3 点を満たした上で、派遣された審査人の審査を通過すると、認証・取得となる。

<EA21 の運営体制>

中央事務局と各地にある地域事務局が協力して審査人の擁立や認証・取得制度の維持を担っている



▲認証・取得制度の運用体制 (エコアクション 21 HP より <http://ea21.jp/aim/>)

(2)本企画の概要

<概要>

京葉銀行が取引先企業を紹介し、学生が EA21 のコンサルティングや環境レポート作成補助を行う。

<目的>

千葉県内の企業の EA21 取得を促進することで、地域の環境負荷削減や環境意識の向上に貢献する。また、コンサルティングを通じて学生委員会が培ってきた環境マネジメント運用のノウハウを生かし、地域に寄与する。

<内容>

- ・企業に対して、環境マネジメント運用ノウハウをもとに適切なコンサルティングを行う。(訪問またはオンライン・全5回)
- ・認証取得に必要な環境経営レポートの作成支援。環境報告書作成から得た知見が活用できる。

<実施体制>

本企画は、EA21 中央事務局と地域事務局・千葉環境財団の協力のもとで実施している。取得企業が EA21 事務局に支払う審査費用の一部をコンサルティング費用として「NPO 法人千葉大学環境 ISO 学生委員会」※が受け取る。学生委員会が NPO 法人としての事業実績を積むための支援にもなっている。

※学生委員会は千葉大学の組織の1つとしてだけでなく、NPO 法人格を

取得し、学内で得た知識やノウハウを地域に還元する活動を行っている。理事長以下役員すべてが学生が務め、主に環境教育事業、里山保全事業、環境活動推進事業の3つを行っているが、常に新しい取り組みを模索している。



(3) 進捗状況

新型コロナウイルスの影響から株式会社弘報社による審査申請が延期になったが、状況が落ち着き次第、再度申請に向けた取り組みを行っていく予定。審査申請までの過程を対象企業とともに取り組むことで、次の申請につなげられたらと考えている。

また、昨年度の報告書の中で「来年度の展望」として、「実際に担当した学生が卒業する前に、次の企業に対するコンサルティングを開始し、ノウハウの引き継ぎを行いたい」としていたが、京葉銀行からのご紹介により、新たに2社のコンサルティングが決定し、弘報社を担当した学生(現4年生)から現2年生への引き継ぎが完了した。現在、新規案件のコンサルティングも以下のように進めている。

日付	実施内容
2021	
2月16日	リッツ資源株式会社との初回面談
3月10日	リッツ資源株式会社への第1回コンサルティング
3月18日	株式会社大幹との初回面談

(4) 来年度の展望

新規の2社の認証取得に向けてコンサルティングをしっかりと行う。

3. 学生発案の7つの環境貢献企画

(0) 全体概要

当委員会のメンバーが、活動の中から得た経験や知見をもとに企画を立案し、幅広い層に対して環境負荷削減・意識向上を呼びかける。企画の実施にあたっては、主に学生委員会が具体的な計画や当日の主な運営を行い、京葉銀行には関係先との交渉や運営の補助などをしていただくという役割分担になっている。

<目的>

地域住民、京葉銀行関係者、千葉大生などを対象として、環境意識の向上を目的とした啓発活動を行うことにより、地域の環境負荷削減と地域活性化を目指す。また、学生にとっては各企画の運営を行うこと自体が環境教育や実務教育の機会となる。

<企画会議>

日時:2020年7月7日(火) 15:00~18:00

場所:京葉銀行 千葉みなと本部

参加者:【京葉銀行】古屋、守

【千葉大学】土屋、武村、古塩、岡山、(オンライン参加→)石井、梅木、河村、谷口、中島、橋本、松林

内容:学生からプロジェクトメンバーを紹介し、既存企画の継続方針と、新企画の提案を行った。

新型コロナウイルスの第2波、3波が懸念されている中での企画立案であったため、通常の経済社会状態で実施するもの(人が集まる企画)と、外出自粛要請や緊急事態宣言が発令された際にも実施できるもの(人が集まらない企画)とに分けて、8つの新企画を提案した。

結果:今年度はメディア広報を軸に実施する。既存の7つの枠組みを踏襲したうえで、既存企画は非対面で行える方法に形を変えて実施し、新企画からもいくつか7つの企画に組み込む形で実施することとなった。

<企画実施状況>

企画	2020年度	参加延べ学生数
(1) 千葉大生と考える環境ゼミナール 	オンライン実施	5
(2) こどもエコまつり 	映像で実施	7
(3) 千産千消フェア ~ちばを食べてエコしよう~ 	紙媒体で実施	6
(4) Chiba クリーンアクション 	計画断念	4
(5) 映画祭 Chiba 2020 	中止	14
(6) エコ発信局 	新企画実施	8+100
(7) 京葉銀行エコチャレンジ 	新企画実施	2

(1) 千葉大生とともに考える環境ゼミナール



<概要>

企業の関係者に向けて、千葉大学における環境に配慮した取り組みの事例やオフィスエコの知識等について学生が講演する企画。2018年度まではオフィスエコに関する講演を行い、2019年度は2回に分けてワークを取り入れた形にする予定であったがコロナの影響で中止となった。本年度はオンラインで開催することができた。内容についても、オフィスエコからSDGsの取り組み事例の紹介を加えるなど進化させた。

<実施状況>

京葉銀行主催の『第4回 アルファバンクの後継者塾』において、塾生に対し、学生委員会が講演した。

・日時:2021年3月12日(金) 13:00~14:00

・場所:Zoom

・関係者:学生4名、教員1名、行員1名

・受講生:中小企業9社より9名

・内容:

「大学と企業におけるSDGs推進の取り組み」

I. 千葉大学との環境への取り組み ~学生委員会の活動紹介~

II. 産学連携の取り組み

III. 企業によるSDGsの事例紹介



講演では、学生が交代で講師を務め、千葉大学の環境活動や産学連携の取り組みの紹介、企業によるSDGsの取り組み事例について50分間お話しした。後半では、企業がSDGsに取り組む必要がある3つの理由を説明したあと、具体例として、4社の大企業と3社の中小企業の取り組み事例を紹介した。そして、SDGs達成に向けて、企業同士のパートナーシップを通じて同業種・異業種間の連携を強めることが肝要であるとし、まずできることとして、既存の事業でSDGsにつながっていることを探し見える化して発信することを挙げた。さらに、SDGsを経営理念と事業計画にしていくことについても紹介し、「今回の講演が皆様のSDGsへの取り組みを一步発展させる機会になれば幸いです」と結んだ。

<p>ISO14001・50001</p> <p>ISO14001 ...環境マネジメントシステム(EMS)</p> <p>ISO50001 ...エネルギーマネジメントシステム(EnMS)</p> <p>環境保全・エネルギー効率改善に配慮した組織運営を続けるとともに、その継続的改善を図る仕組みのことです。 ともにPDCAサイクルに基づいて行います。</p>	<p>千葉大学の産学連携</p> <p>なぜ、産学連携をするのか</p> <p>①世界的な情勢の変化 SDGsを意識する重要性の高まり</p> <p>②社会的メリット 学生と企業が連携することによってPR効果が高まる</p> <p>③教育的メリット 学生の社会勉強や貴重な経験となる</p> 
<p>SDGs・ESGとは</p> <p>ESGとは… 環境 (Environment) 社会 (Social) 企業統治 (Governance)</p> <p>企業の長期的な成長に、ESGの3つの観点が必要だという考え方が世界的に広まっています。</p> <p>財務情報だけでなくESGに着目して企業を評価し、投資の意思決定を行う「ESG投資」が注目を集めている</p> 	<p>企業がSDGsに取り組む必要性</p> <p>①サプライヤーとしての適格性 ②「SDGsへの関与」から信頼を得る ③融資、投資 ex. 平野ビニール工業</p> <p>SDGsに積極的な企業の割合 ~業種・業別~</p> 

・結果:近年注目されているSDGsについて千葉大学の取り組みだけでなく大企業、中小企業の取り組みを紹介することで参加企業にもSDGsを意識した事業の推進を提案することができた。質疑応答では企業の方から多数の質問が寄せられ、交流を深めることができた。

<企画の感想>

SDGsの取り組み方について事例を発表するため学生自身が大企業や中小企業の事例を調査し、PPTにまとめたことで、千葉大学以外の新たな視点での取り組み方を知ることができた。また、それらを企業の方と共有することで学生だけでなく、企業の方も今後取り組むべきSDGsへの理解が深まり、各々の事業に活かすことができればプロジェクトの実施意義が感じられると思う。

(2) こどもエコまつり



<概要>

地域の子どもたちを対象にゲームや工作体験を通じて、環境について考えるイベントを開催するのが例年の内容であったが、対面でのイベントが難しい今年度は動画を使って実施した。環境啓発を目的とした CM を作成し、京葉銀行の店舗に設置されたディスプレイで放映した。CM には環境啓発のメッセージに加えて、本 eco プロジェクトや ISO 学生委員会の活動紹介を盛り込んだ。学生が CM を作成し、動画の編集を行った。京葉銀行が設置場所、期間等の調整を行った。

<目的>

持続可能な社会の構築が求められている現代において、環境教育は非常に重要であり、本企画では、子ども向けの環境意識啓発のイベントを実施することで環境教育を推進していたが、今年度は、その代替として動画を使用することで、子どもだけを対象とせず、幅広い世代を対象にした啓発を行うことを目的にした。

<実施状況>

学生が PowerPoint スライド(25 枚)を作成し、ナレーション原稿を考え、京葉銀行の設備を利用し、ナレーションを収録した。(下写真:収録の様子)

その後、学生が編集し、BGM を入れ、動画にした。動画はディスプレイで放映したほか、YouTube 等でも公開した。



・啓発対象:京葉銀行の利用者(市民)

・CM 内容:

環境啓発(生物多様性の保護)

本プロジェクトの活動紹介(映画祭 Chiba、Chiba クリーンアクション、千産千消フェア、エコ発信局)

ISO 学生委員会の活動紹介(里山活動、イベント開催、中古品販売)

「おうちでできること」(ゴミ分別、エアコンフィルター清掃、エコバッグ、フードロス、節水・節電など)

・CM 長さ:4 分 33 秒

・放映箇所:計 114 台のディスプレイ

京葉銀行の全営業店(110 店舗)の店内のディスプレイ

同行千葉みなと本部 1 階ロビーのディスプレイ

同行船橋駅前支店・津田沼支店・稲毛支店の外向けディスプレイ

・放映開始:2021 年 1 月 20 日(水)

・動画公開

YouTube:<https://youtu.be/euil3ay7MFE>

Instagram:<https://www.instagram.com/tv/CKVNIKsJl0-/?igshid=34qa7zj13b2p>



・関係者:学生 7 名、行員:多数

・結果:動画を通して、環境問題とそれに対する家庭での取り組みを紹介することができた。

動画の総再生回数:156 回(YouTube 138 回、Instagram 18 回) ※3月 17 日現在

総高評価数:47(YouTube:4、Instagram:25、Twitter:19)

<広報>

2021 年 1 月 19 日:千葉県政記者クラブにプレスリリースを配布

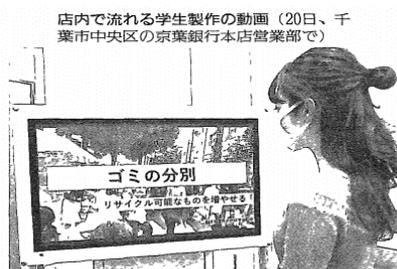
PRTIMES を使用したwebリリースを配信

<https://prtmes.jp/main/html/rd/p/000000455.000015177.html>

2021 年 1 月 20 日:放映初日に読売新聞の記者が京葉銀行本部に取材に訪れる

2021 年 1 月 21 日:読売新聞朝刊(千葉版 25 面)に記事掲載

2021 年 2 月 19 日:ニッキンに記事掲載



京葉銀で環境保護の動画

千葉大生製作 全営業店で

京葉銀行は20日、全営業店で千葉大学の学生が作った環境啓発動画を流し始めた。同行と同大が共同で取り組む環境保護活動の一環。2012年に包括連携協定を結んだ両者は、17年から「エコ・プロジェクト」として、子供対象のイベントなどを行っている。今年は新型コロナウイルスの影響で対面の催しが難しくなり、代替案として学生が動画による啓発を思い付いた。

学生から相談を受けた同行は、所有する14台のディスプレイを提供することにした。110の全営業店内や一部支店の店外向け画面などで連日流す。動画は4分33秒で、写真やスライド25枚を組み合わせた。ゴミ分別など家庭でもできる環境保護の取り組みを紹介している。動画作りには学生6人が参加。法政経学部2年の早川咲紀さん(20)は「多くの家庭で実践してもらえたら幸いです」と話している。

千葉大生制作の動画SDGs啓発で放映
京葉銀

京葉銀行は、1月20日から全店舗のディスプレイで千葉大学の学生が制作した環境意識啓発CMを放映している。同大学との連携に基づき取り組みで、SDGs(持続可能な開発目標)への地域の意識を高める目的。両者は2017年から、「エコプロジェクト」7色の虹を千葉から未来へ」と称している。

環境意識の啓発活動を展開。コロナ禍で同プロジェクトに関するイベントの開催が困難なため、非対面で周知できる動画を作成した。CMは、同大学環境ISO学生委員会が制作。25枚のスライドとナレーションで環境保全の大切さを訴える内容で約4分30秒。同行110カ店の店内や千葉みなど本部1階ロビーのディスプレイのほか、船橋駅前・津田沼・稲毛支店の外向けディスプレイでも放映している。

▲読売新聞掲載の記事(左)、ニッキン掲載の記事(右)

<企画の感想>

動画制作は初めての試みだったが、銀行店舗を利用する幅広い世代の方々にメッセージが伝わるよう、また親しみを感じてもらえるように、絵を柔らかいタッチにする、わかりやすい言葉を使う、など工夫を凝らした。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で子どもたちと直接ふれあいながら環境について考えることはできなかったが、この動画を通して少しでも多くのご家庭で環境への取り組みを実践していただきたいと思っている。

<来年度の目標>

来年度はよりクオリティの高い動画の作成や、他のツールでの環境啓発を考える。対面での活動が可能な場合は、昨年度以前と同様に、子どもたちとレクリエーションを通して環境について考えていきたい。

(3) 千産千消フェア～ちばを食べてエコしよう～



<概要>

例年は、学生委員会が主催する環境啓発イベント「Chiba Winter Fes」で、千葉の特産品を扱う農家等に出店していただき、千産千消や地域活性化に貢献する企画を行っていた。今年度は、コロナ禍という状況を踏まえ、農産物及び加工品の製造業者へ取材を行い、その内容をリーフレットにまとめ配布することにした。取材先は京葉銀行に紹介していただいた。現在リーフレットは作成中である。

<目的>

- ・千葉県の産物の魅力をリーフレットの読者に認知してもらい、地産地消を促す。
- ・リーフレットの配布等を通じて地産地消を行う生産業者に貢献する

<現状報告>

11月、12月に以下の5社に取材を行った。現在は原稿の校閲をして頂いている段階である。

- ・株式会社菜の花エッグ様
- ・株式会社さつまいもの石田農園様
- ・株式会社オオノ農園様
- ・ピーナッツサブレ本舗 株式会社富井様
- ・株式会社千葉産直サービス様



▲富井様取材の様子



▲菜の花エッグ様取材の様子



<取材の感想>

立案当初は10件程度取材に行き、それらをまとめる予定だったが、2度目の緊急事態宣言により取材が難航し、今回は5件を掲載することにした。実際に取材に行ったことで、生産者さんがいかに加工にかかる時間を短くして消費期限を延ばすか、どうしたら他の商品とは違う魅力を生み出すことができるか、どうすれば人々に長く愛されるかなど、私達消費者が考えた事のない側面にも、アプローチしながら商品づくりを行なっていることが分かった。また、どの生産者さんも熱心にインタビューに答えてくださり、商品に誇りや自信を持っていることが伝わった。生産者さんが自信を持って生産して下さるおかげで、私達消費者は安心して食を楽しむことができていると感じるなど、取材を通して学ぶことが多く、非常に楽しかった。

<来年度の目標>

例年のようなイベント出店という形になるか、紙媒体やオンライン媒体を使った紹介という形になるかわからないが、引き続き、千産千消に貢献する取り組みを行っていきたい。

(4) Chiba クリーンアクション



<概要>

2018 年度から館山沖ノ島を中心に環境保全活動に取り組む NPO 法人と連携し、沖ノ島周辺のアマモ再生活動に参加していたが、コロナ禍での移動が難しくなったことに加えて、学生が主体的に関われる企画を実施したいということから、今年度は、アマモ再生活動には参加せず、新しい企画を立てることとした。

そこで、京葉銀行や大学構内で使える状態の傘を回収し、シェア傘としてボックスに設置し貸し出す企画「あなたの傘を有効活用しよう」を立案した。

<目的>

シェア傘システムを通して、使われていない傘の再利用や無駄な傘購入の抑制を促し、廃棄される傘の量を減らす。

<実施状況>

京葉銀行・大学で使っていない傘を回収し、再利用可能な傘を選別し、その傘にプロジェクト名を記載したラベルを貼って、誰もが使える「シェア傘」として京葉銀行や大学構内に設置するというシェア傘システムを構想したが、コロナ禍であり、緊急事態宣言中に回収や貸出をするのは世間的に難しいこと、具体的な提案の時期が遅くなったことで貸出時期が雨季ではないことや、来年度への後継の難しさもあり、今年度は中止することとなった。

<企画の感想>

構想段階に多くの時間を費やしてしまい、実施に移れなかったのが悔やまれる。しかし、構想が不十分なまま実行に移るよりはまだ適切な処置であると思う。一年間企画を煮詰めることができたとプラスに考え、後輩に構想を引き継ぎたい。

<来年度の目標>

後輩に構想および検討経緯を引き継ぎ、コロナ禍・人手・意思などを考慮した上、企画を実行するか否かを判断してもらう。

(5) 映画祭 Chiba 2020



<概要>

環境教育や環境啓発の一環として、環境問題に関する映画を鑑賞した後、その内容を踏まえて個人の意見を共有する。2019年度にスタートした本企画を今年度も継続実施する予定であったが直前で中止となってしまった。

<目的>

誰にでも親しみやすい「映画」を利用して、環境問題や自然保護に興味・関心を持ち、理解を深めるとともに、環境問題にどのように向き合っていけば良いかを考えることで、身近なところから行動することが大事であることに気づいてもらう。また、大学生と中学生が交流することで、普段の生活では得られない視点や気付きをお互いに与えられるのではないかと考えた。

<実施状況>

実施する方向で進んでいたものの、開催直前に、中学校の方で新型コロナウイルスへの対応が必要となり、本企画も中止となってしまった。以下は予定していた内容。

・日時:2020年11月6日(金) 13:35~15:45

・場所:千葉市立新宿中学校

・内容:



▲映画視聴の様子(2019年度)



▲ディスカッションの様子(2019年度)

1. 導入:大学生側の自己紹介、挨拶など(10分)
2. 映画「アイス・エイジ 2」の紹介・冒頭部分の視聴(25分)
3. 鑑賞した映画の解説と生徒に話し合ってもらった映画の問題点の紹介(20分)
4. ワークシートの記入(15分)
5. 少人数グループでの話し合い(15分)
学生は各グループを回って生徒の話し合いをフォローする
6. グループ発表(15分)
7. まとめと挨拶(10分)

・関係者: 学生 14名

・結果:中学生 164名に対して環境教育を行う予定だったが、新型コロナウイルスの影響で実施中止となったため、次年度以降のために引き継ぎ資料の作成を行うこととした。

<企画の感想>

スケジュールを綿密に立てて、教材作成にあたって学生や行員の方や先生の意見を取り入れつつ、試行錯誤しながら企画の実施に向けて準備を進めてきたが、実施が中止になってしまいとても残念だった。引き継ぎ資料を完成させたので、来年度以降に活用してほしいと思う。

<来年度の目標>

本企画が行えるような状況であれば、今年度作成した引き継ぎ資料を参考にして、より生徒に環境に興味を持ってもらえるような企画を開催したい。

(6) エコ発信局



<概要>

本プロジェクトの特設サイト内の「いそちゃんの部屋」(https://www.keiyobank.co.jp/ir/eco_project/column.html)を通じ、京葉銀行の取引先企業や行員、市民、千葉大学生に向けて環境負荷削減のための様々な情報を発信する企画。企画の趣旨は身近な環境負荷削減の取り組みについて、学生目線で発信することで、例年はエコ啓発記事の掲載をしたり、佐原のリーフレットを作成して配布するなどの活動を行っていた。今年度は、エコ発信局の中で、「いそちゃんの部屋」の記事更新と、「香りよし！色よし！みんなでタネをまこう！」の2つの企画を実施した。

●「いそちゃんの部屋」の記事更新

<目的>

環境負荷削減のアイデアなどを学生目線でわかりやすく発信することで、環境意識の啓発・行動の実践を促す。

<実施状況>

① 定期更新（前年度に引き続き、3ヶ月毎に更新した）

○11月号「プラごみ問題」(右写真)

- ・更新日:2020年11月5日
- ・内容:プラスチック問題を取りあげ、エコバッグの紹介や3Rの取り組みを紹介した。

[https://www.keiyobank.co.jp/ir/eco_project/pdf/vol.15-](https://www.keiyobank.co.jp/ir/eco_project/pdf/vol.15-202011.pdf)

[202011.pdf](https://www.keiyobank.co.jp/ir/eco_project/pdf/vol.15-202011.pdf)



○2月号「みんなでタネをまこう！レタスを味わおう！」(下写真)

- ・更新日:2021年3月5日
- ・内容:エコ発信局のもうひとつの企画である「香りよし！色よし！みんなでタネをまこう！」で配布するリーフレットの栽培法と調理法を特集した。

https://www.keiyobank.co.jp/ir/eco_project/pdf/202103tane.pdf

みんなでタネをまこう！レタスを味わおう！

千葉大学 × 京葉銀行 ecoプロジェクトとは？

本プロジェクトは、千葉大学環境ISO学生委員会と京葉銀行が協同し、環境活動の促進や地方創生、学生の社会動機等を通じて地域活性化や環境に貢献することを目的としています。2017年の発足後、京葉銀行の行員やお取引先企業はもちろん、地域住民の皆さまや千葉大学の学生などを合わせた千葉県内の多くの方々を対象に、環境意識の啓発活動を行ってきました。今後も国連の持続可能な開発目標(SDGs)の達成に向けて、地域の環境負荷削減と環境意識の向上に貢献していきたいと考えています。

1. 「うち時間」を見直しませんか？

コロナウイルスの感染拡大に伴い、自然と家族が揃って同じ空間で過ごす時間が増えていますか？「うち時間」といわれているその時間も、バトン化して動いてみてはいかがでしょうか？

3月13日(土)、14日(日)に千葉市動物公園で配布するリーフレット「レタスのタネを育ててInstagramに投稿のの様子を投稿すると、抽選でプレゼントが当たります！」

育てた後は調理して食べることもできるレタス。皆さまの投稿で、栽培中のいろいろな人とのつながりも感じられます。投稿お待ちしています！

2. レタスを育ててプレゼントをもらおう

Instagramで投稿していただくことで、応募が完了します。

※応募の流れ

- ① 「栽培中のレタス(または「調理したレタス」の写真)を撮影
- ② ご自身のアカウントで「@eco_dispatch」をフォロー
- ③ 「#まちバナナプロジェクト」#エコ発信局とハッシュタグをつけて投稿

※ 応募完了！

※抽選: 抽選対象は3月13日(土)～3月20日(日)までの投稿された投稿写真が対象となります。抽選は3月20日(日)に行われます。抽選結果は3月20日(日)の抽選結果をInstagramで発表いたします。

3. リーフレタスってどんな野菜？

リーフレタスはセロリータスに代表されるように、結球しないレタスです。栽培期間が1ヶ月と大変短く、栽培方法も簡単なので、初心者の方でも気軽に育てることができます。また、家庭用のプランターで十分な大きさに育つのも特徴です。

リーフレタスに含まれる栄養は、**がっつり、カルシウム、鉄、ビタミンC**などですが、通常の結球するレタスの2倍以上の報告もあり、栄養満点です。

ちなみにーレタスの花ってどんな花？

レタスの花を見たことがありますか？

タネがあるというところは、花が咲いたということです。

実は、レタスは高い温度と日が長くなることを感知すると、黄色い花を咲かせようとします。しかし、目にすることはほとんどありません。レタスは半開花なので、似たような花を見たことがありません。

4. タネをまこう！

1) タネまきの準備をしよう

必要なものは以下の5つ。

- 野菜用培養土
- プランターまたは紙コップ
- 受け皿
- じょうろ
- 紙芝居などあれば生育促進したい場合は肥料(なくても十分育つ)

「1ヶ月で収穫できる」とは嬉しいですが、栽培期間が短い分、収穫量も少ないです。収穫量を増やしたい場合は、1プランターあたりに2種類のタネをまいてください。

② 1年生によるエコ啓発記事の特別号

環境 ISO 学生委員会の1年生が受講する授業「環境マネジメント実習 I A」の中で、ワークショップとして、「いそちゃんの部屋」に掲載する記事の作成を行った。100名の1年生が25グループに分かれて、啓発記事を作成し、プレゼン大会を行い、投票により上位になったものなど、8つの記事を選んで、推敲を重ねて作成し、2021年1月に順次掲載した。

タイトル・掲載 URL	内容
エコなお買い物しませんか？ https://www.keiyobank.co.jp/ir/eco_project/pdf/202101.pdf	エコバッグの利用、食品や衣料品の買い物の際の注意点などを紹介
エコな旅の三箇条 https://www.keiyobank.co.jp/ir/eco_project/pdf/2021014.pdf	公共交通機関の利用、持ち物、地産地消の観点からエコな旅を紹介
エコに移動してほしい！！ https://www.keiyobank.co.jp/ir/eco_project/pdf/2021012.pdf	パークアンドライドと次世代の交通システム(新モビリティサービス)の紹介
紙ストローは、神ストロー？ https://www.keiyobank.co.jp/ir/eco_project/pdf/2021015.pdf	プラゴミ問題、紙ストローの利点と使用した感想、代替ストローの紹介
今すぐもとう My マスク 守ろう！ あなたも 環境も https://www.keiyobank.co.jp/ir/eco_project/pdf/2021013.pdf	マスクごみの現状を紹介し、手作り布マスクとマスクの使い分けについて紹介。
どうしたらゴミを減らせる？ https://www.keiyobank.co.jp/ir/eco_project/pdf/2021016.pdf	市民が取り組めるリサイクル回収、千葉市のプラスチック製品や木の枝などの回収方法、フリマアプリの活用について紹介
エコな料理をしよう！ https://www.keiyobank.co.jp/ir/eco_project/pdf/2021018.pdf	料理を、準備・調理・片付けの3段階に分けて、各段階でのエコなポイントを紹介。
おいしい&エコで「フードロス問題」を解決！ https://www.keiyobank.co.jp/ir/eco_project/pdf/2021017.pdf	フードロスの現状やフードシェアサービスを紹介したほか、野菜の捨ててしまう部分を使用した料理を紹介。

The collage displays eight student-written articles, each with a title, a URL, and a short summary of the article's content. The articles are:

- エコなお買い物しませんか？**: Article about using eco-bags and shopping tips.
- エコな旅の三箇条**: Article about eco-friendly travel tips like public transport and local products.
- エコに移動してほしい！！**: Article introducing Park and Ride and next-generation transport systems.
- 紙ストローは、神ストロー？**: Article discussing the pros and cons of paper straws and alternatives.
- 今すぐもとう My マスク 守ろう！ あなたも 環境も**: Article about mask disposal and handmade cloth masks.
- どうしたらゴミを減らせる？**: Article about recycling, plastic waste collection in Chiba, and using flea market apps.
- エコな料理をしよう！**: Article detailing eco-friendly cooking steps: preparation, cooking, and cleanup.
- おいしい&エコで「フードロス問題」を解決！**: Article about food waste, current status, and using food sharing services.

<企画の感想>

今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で9月以降からの活動となってしまったことで、活動の幅が狭くなったことが心残りである。記事では、簡潔に文章をまとめる難しさや適切な引用の大切さを実感した。

<来年度の目標>

今後も身近な最新の環境の話題について、学生ならではの柔軟な視点から幅広く発信していきたい。また、インタビュー企画などに取り組み、地域の様々な取り組みを発信していきたい。

●香りよし！色よし！みんなでタネをまこう！

<目的>

新型コロナウイルスによる外出自粛により家にいる時間が増えたと考えられる。その時間を使って、家族あるいは親子の共同作業を通して、家庭菜園などの園芸にかかわる時間を増やしてもらい、食べ物を育てるという自産自消の楽しさや難しさを感じてもらおう。本企画ではレタスの種を配布することで、本 eco プロジェクトの PR も行う。また、Instagram のハッシュタグ機能を用いて栽培をする家庭同士でのつながりを感じてもらおう。

<実施状況>

学生が提案した本企画に対し、京葉銀行が配布する会場の手配をし、学生が種の袋の広告スペースのデザインを考えた。

親子連れをターゲットとすることから、千葉市動物公園で配布することにした。京葉銀行で、うまい棒(スナック菓子)を用意していただき、種と一緒に配布することで、子どもにより関心を持ってもらえるようにした。

配布イベント

日程:2021年3月14日(日)、3月20日(土)

時間:両日ともに9:30~11:00

部数:各日 750個 合計 1500個

場所:千葉市動物公園 正門・西口ゲート・北口ゲート



3月14日の配布イベントの様子

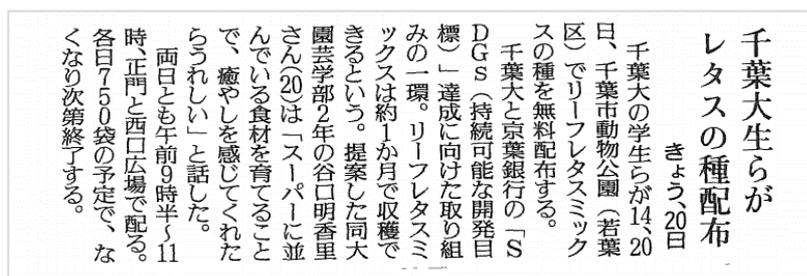
<広報>

2021年3月5日:千葉県政記者クラブにプレスリリースを配布

PRTIMES を使用したwebリリースを配信

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000467.000015177.html>

3月14日:読売新聞 朝刊 千葉版 23面



<結果>

(本報告書執筆 3/16 時点)3 月 14 日の配布イベントが終了し、予定していた 750 人ほどに配布することができた。親子連れが多く、子どもも親も喜んでもらってくれた。「30 日で収穫できるレタス」ということで、栽培してみようかなと思ってくれる人が多かったようである。当初は花の種(アリッサム)を配布予定だったが、収穫をして食べられるリーフレタスの方が「自産自消(地産地消)」の意識を高められると考え変更してよかった。種を受け取った方による Instagram の投稿者数すなわち応募者数はまだ把握できていない。4 月中旬に抽選を行う予定。なお、読売新聞に当日の朝、告知記事が掲載されたことで、種をもらうためだけに訪れた方もいた。

<企画の感想>

本企画は 2020 年度の新企画で、一から立案することの難しさを実感した。在宅でのメディア授業を受けながら、種苗会社とのやり取りなどが大変だった。また、既存の例がないため、大きなプラカードで人寄せをすることや、口頭による企画や栽培方法の説明だけでなく、視覚的に短時間で理解してもらえるような説明方法を考えることなど、イベントをイメージした準備をすることが大切だと感じた。また、京葉銀行の守様が、動物園との日程や場所の調整をしてくださったことに感謝をしている。親子連れが多く訪れる動物園で配布できてよかった。種を受け取った方の中にはこの企画に興味を持ってくれる方や、プレスリリースを見て種をもらうためだけに来た方もいた。それらにはありがたいことだと感じる。一方、配布する短い時間で、企画の紹介や抽選も実施していることを的確に伝えられなかったのは反省点の 1 つである。たくさんの人にエコプロジェクトの存在を知ってもらうことと、ひとりひとりに対応することの両立が必要だと痛感した。

<来年度の目標>

実施回数を 1 年に 2 回程度に増やし、それぞれの季節の野菜やハーブあるいは花の育成を楽しんでもらえる企画にしたい。当初の主旨はおうち時間の充実だったが、新型コロナウイルスの感染拡大が落ち着き、子どもたちが外で遊べるようになって、野菜や花の栽培、特に学校では育てないようなものの育成を通して環境を考えられる企画にしていきたい。配布の時間帯や場所の工夫をして、受け取る家庭ごとに丁寧な説明をしながら配布できるようにしたい。広報活動によっても来場人数は増加すると分かったので、積極的な発信も継続したい。

(7) 京葉銀行エコチャレンジ



<概要>

学生がエコアイデアを提案し、それをもとに京葉銀行各支店において環境負荷削減に取り組んだのち、取り組み状況や成果などを評価するという内容で、2019 年度までの 3 か年では、主に紙削減に取り組んできたが、2020 年度は少し方向性を変えて、学生が考えたデザインを取り入れたエコグッズを京葉銀行の銀行員の方々に利用していただくことになった。

<目的>

学生が考えたデザインを取り入れたエコグッズ(マイストロー、マイボトル)をつくり、行員に利用してもらうことを通じて、プラスチック削減と行員の環境意識向上を目指す。

<実施状況>

① サンクスカード※の景品をつくる企画

サンクスカードの表彰時に贈呈される景品のデザインを学生が担当した。景品がステンレスボトルということもあり、マイボトルの利用によってプラスチックの使用を削減しようというメッセージを込めて、SDGs の「14. 海の豊かさを守ろう」をイメージしたデザインとなった。贈呈時期は年度内を予定している(贈呈対象は 60 名程度)。

※サンクスカードは京葉銀行内での仕組みで、行員同士の感謝・讃える気持ちを見える化するツール。褒める文化の構築により、行員同士でのコミュニケーション強化・モチベーション向上・チーム力の強化を図る。実施期間(半期ごと)終了後に各部店ごとに、たくさんカードをもらった行員の表彰を行っている。なお、カード 1 枚につき 10 円を社会貢献活動へ寄付する仕組みとなっている。



▲学生がデザインしたステンレスボトル

② マイストロー企画

プラスチックストローの利用削減を目指し、学生が名入れ部分をデザインしたマイストローを行員に使ってもらう。来年度、学生が京葉銀行内で販売イベントを行う予定。また、千葉大学生協でも一部販売する予定である。



▲使用するマイストローと学生のデザイン

<企画の感想>

環境を意識したデザインを考えるのはなかなか大変だったが、今後の活動に活かせるようなアイデアも多く出すことができた。企業の方と企画を進めていく点でも我々学生にとってとても良い社会経験になった。ぜひ多くの行員の方々にエコグッズを使っていいただければと思う。

<来年度の目標>

来年度はエコグッズの利用に限らず、行員の皆様に環境を意識していただけるような新たな取り組みができればよいと考えている。そのためにも学生間で多くのアイデアを柔軟に出し合い、より画期的な取り組みを京葉銀行様と協力して行っていきたい。

4. まとめと来年の展望

(1) 総括

企画	成果	進行状況
1. 京葉銀行による学生委員会の環境活動支援	○	コロナ禍によりオンライン参加となったが、環境系の会議等に学生を派遣することはできた。
2. 「エコアクション 21」取得コンサルティング	○	新たに 2 社にコンサルティングを開始した。
3. 学生発案の 7 つの環境貢献企画		
(1) 千葉大生とともに考える環境ゼミナール	○	オンラインで実施できた。来年度も継続したい。
(2) こどもエコまつり	◎	環境啓発動画という新しい形で実施できた。
(3) 千産千消フェア ～ちばを食べてエコしよう～	○	企業に取材してリーフレットを作成するという新しい形で実施中。
(4) Chiba クリーンアクション	△	コロナ禍により中止となった。
(5) 映画祭 Chiba 2020	△	コロナ禍により中止となった。
(6) エコ発信局	◎	継続実施できた。新企画も実施できた。
(7) 京葉銀行エコチャレンジ	○	エコグッズ贈呈・販売する企画の準備が整った。

(2) プロジェクトリーダーより

まずは、本プロジェクトの発足から現在に至るまで、多大なるご尽力とご支援を賜りまして、深く御礼申し上げます。今年度は、新型コロナウイルスの影響で活動内容が制限される中、模索しながらの取り組みとなりました。「エコアクション 21 取得コンサルティング」では、同ウイルスの影響で、これまでコンサルティングを行ってきた株式会社弘報社の審査申請が延期となるハプニングがありましたが、一方で新たな 2 社とのコンサルティングを始めることができました。京葉銀行様には企業をご紹介いただき、ありがとうございました。来年度は、審査申請とコンサルティングを並行して進めていければと存じます。

「7 つの環境貢献企画」では、全ての企画で新しいことに挑戦する機会をいただきました。初回ミーティングでは多くの企画を提案し、その全てに対して誠意ある検討をしていただいたことが印象に残っています。新たな試みでも、京葉銀行様のお力添えのおかげで成功させることができました。「こどもエコまつり」では、環境啓発動画を作成し、京葉銀行を利用するお客様に広く環境啓発活動を行うことができました。「千産千消フェア」では、多くの企業にインタビューを行い、千産千消がどのように進められているのかを知ることができました。「エコ発信局」では、多くの地域住民の皆さまに対し、リーフレタスの種を配布し、家庭での園芸体験を通じて自産自消という環境啓発ができたものと存じております。「京葉銀行エコチャレンジ」では、エコグッズのデザインを学生が担当いたしました。多くの行員に利用していただけることを期待しております。また、今年度は新型コロナウイルスの影響で行えなかった企画も存在しますが、企画や準備をした経験は決して無駄なものではないと存じます。今年度の経験を踏まえ、来年度以降さらなる発展ができることと信じております。

来年の展望といたしましては、今年度培ったコロナ禍での活動のノウハウを引き継ぎ、コロナ禍ならではの内容や手法といった新たな切り口で企画を進めていければと存じます。また、内容は素晴らしいがコロナ禍では実施できないという理由で、活動できなかった企画もありますので、その企画を風化させず、コロナ禍の収束の時期までに更に煮詰めていこうと存じます。

最後に、もう一度皆様のご尽力に御礼申し上げるとともに、引き続きのご支援をお願いし、結びといたします。誠にありがとうございました。今後ともよろしく願い申し上げます。

千葉大学×京葉銀行 eco プロジェクト 推進リーダー 土屋健太